

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	患者の行動変容を導く動機づけ技法の修得を目指す 対人援助型コミュニケーション能力育成プログラム				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科・教授	氏名	仲井 雪絵
	研究分担者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科・准教授	氏名	長谷 由紀子
		所属・職名	医療系大学間共用試験実施評価機構・委員	氏名	吉田 登志子
		所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科・講師	氏名	森野 智子
	発表者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科・教授	氏名	仲井 雪絵

講演題目
行動科学に基づく対人援助型コミュニケーション技法「MI」のシミュレーション教育プログラム
研究の目的、成果及び今後の展望
<p>【研究の目的・背景】</p> <p>動機付け面接法（Motivational Interviewing; MI）とは、患者教育・保健指導の現場で行動変容を導くために Miller W. R. と Rollnick S. が行動科学をベースに構築した対人援助理論とその技法である。健康行動や治療アドヒアランスにおける有効性が報告され、MI は保健指導に従事する医療者の間で広く認知されている。しかし日本の歯科衛生士養成校における医療コミュニケーション教育の中で MI の導入は皆無に等しい。本研究代表者は当該領域の専門家と協働し、歯科衛生士に合った MI 修得プログラムを考案した。令和元年度は、MI 技法を修得するための歯科衛生士向けプログラムを初めて試行し、令和 2～4 年度には模擬患者（SP）参加型演習を導入し、より実践に近似した状況での教育効果を検証した。その結果、臨床現場に出たことのない 2 年次生に SP を相手に MI を実施させるのは容易ではないと考えられた。SP 参加型の導入前に、難易度を調整した体験の必要性に気づきを得た。そこで今回は、保健指導・患者教育の基本ならびに MI に関する講義の後、次の演習を実施した。</p> <p>①患者と歯科衛生士の会話のシナリオを用いて、チェンジトークと維持トークの見分け方をトレーニングする。②医療者が SP に保健指導をしている様子をあらかじめ撮影した動画を用いて、そこで交わされる会話を聞きながら会話分析を同時進行で行う。③学生同士のロールプレイによって聞き返しエクササイズを行う。本年度の目的は、MI 修得につなげる新たな演習方略を構築することである。</p> <p>【成果及び今後の展望】</p> <p>歯学教育で当該分野の第一人者である吉田登志子氏と協働でプログラムを考案し、毎年改善策を試みている。今回の対象者である令和 5 年度 2 年生は 1 年次から新カリキュラムが適用された学年であり、本プログラムを受講する前に歯科保健指導の基礎知識を学び学内実習の中でシミュレーションをする機会が従前よりも多く、また下級生を患者役に見立てた実習の中で一連の歯科衛生過程を経験していた。昨年度までの対象と比較すると、本プログラムにおいて実施困難を感じる場面はほとんど無かった。カリキュラム改正によって新規創設された科目群によって、保健指導の実践を包摂した学修機会が拡充し重層化されたことも要因であると考えられる。プログラム終了後、学生から次年度の臨地実習で MI を応用する意欲に満ちた意見も聞かれた。今後も引き続き改善を図る所存である。</p>